

令和6年度 アーツ前橋事業評価調書

基本事項	事業名	ここにいてもいい リトウンアフターワーズ 山縣良和と綴るファッション表現のかすかな糸口												
	会期	2024/4/27－6/16								開館日数	44 日間			
	会場(ギャラリー)	ギャラリー(1F+地下)								実施方式	01自主企画・単独方式			
	観覧料	一般	500 円							出品点数	72点			
		割引	300 円											
	担当者	学芸:宮本武典、辻 瑞生 事務:菅原梨恵												
	目的 (一覧表)	ファッションデザイナー山縣良和の作品と、文化・教育・社会・環境にまつわる多彩な活動の紹介を通して、生活のなかのアートとして、またコミュニケーションツールとしての「衣服」の新たな可能性を提起する。群馬県内の繊維産業をリサーチし、この地域のものづくりや文化の原点を見つめなおす。												
	キーワード	ファッション、教育、アートプロジェクト、絹遺産												
	他団体との連携 (共催、協力等)	助成:日本芸術文化振興会												
		協力:東京芸術大学宮本武典研究室、FashionStudies®、PAESEE GALLERY、												
ROCCADIA DESIGN AND WORKS、桐生大学短期大学部アート・デザイン学科ほか														
参加作家	山縣良和													
	石内都 畑中章宏 谷川嘉浩 津野青嵐 coconogacco													
関連イベント	①トークプログラム 4回 4/27、5/12、5/19、6/1													
	②キュレータートーク 4回 5/4、5/18、6/1、6/15													
	③対話型鑑賞プログラム「おしゃべりアートデイズ」 5/18、6/15													
	④タイアップ企画:Think of Fashion®アート講座 3/8 会場:GAKU(渋谷パルコ9階)													
① 投入 (支出)・ ③ 結果 (収入)	印刷物等	ポスター (B2)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録							
		500部	40,000 部											
	収入／支出	収入(A)	支出(B)	収支比率 (A)／(B)	入館者一人 当たりコスト	収入内訳								
						観覧料	助成金	他						
		予算	2,200,000 円	10,594,820 円	20.8%	2,119 円	2,200,000 円		0 円					
		決算見込	3,884,800 円	10,635,476 円	36.5%	1,914 円	1,884,800 円	2,000,000 円	0 円					
		差額	1,684,800 円	40,656 円	15.8%	－	－315,200 円							
予算／決算	176.6%	100.4%	175.9%	90.3%	86%		#DIV/0!							
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	ファッションと社会との関係を問いつける山縣良和(writtenafterwards主宰)のクリエイションを紹介した。群馬県内の繊維産業のリサーチによる新作のインスタレーションも発表。山縣が主宰するファッション表現と実験との学びの場「coconogacco(ここのがっこう)」とも連携し、デザイナーを目指す若者たちの表現も紹介した。											
		・広報戦略 ・新たな試み (転記)	・展覧会の準備段階からリサーチや作業の様子をインスタグラムで高頻度に発信した。 ・展覧会閉館後に、トークイベントを実施した。 ・資生堂花椿(ウェブ版)のタイアップ企画で、講演会の内容を紹介してもらった。 ・展覧会の招待状をはがきサイズにすることで、内容をコンパクトに伝えるとともに、郵送料などのコスト削減に努めた。											
	〔②活動〕 主な取組(手段)の 結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成 など ●指標 来館者反応 手ごたえ	広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体 など、特別 な案件]	・インスタグラム、ウェブサイトともに閲覧数やユーザー数が増えた。 ・「ファッションスナップ」「WWD」「花椿」などファッション関係のウェブサイトで大きく取り上げられた。 ・開幕日に上毛新聞の一面を飾ったほか、桐生タイムスをはじめ、朝日、毎日、読売、東京で大きく取り上げられた。 ・アンケート結果では展覧会の認知媒体が、ウェブ・SNSが43.4%と最も高く、出版媒体は4.9%と最も低かった。											
		新たな試 みの実績	・開催1か月前に民間団体とタイアップ企画を都内で実施、展覧会を紹介するトークイベントを開催した。 ・5月5日の入館料無料日に、中心商店街イベント(ツナガリズム祭り)と連携を図り、当館をスタンプラリーの会場とすることでさらなる集客力の強化に繋がった。											
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計 (人)	日平均 (人)	
		2,049	244	126	59	260	580	1	20	170	2,047	5,556	126	
		36.9%	4.4%	2.3%	1.1%	4.7%	10.4%	0.0%	0.4%	3.1%	36.8%			
	一般指標	指標	目標値		達成値		達成率		特記事項					
		入場・参加者数		5,000 人		5,556 人		111.1% %		総数にはイベント参加者数を含む G1 5265人、地下4087人、有料入館者 2479人				
展覧会満足度		%		93.6 %		pt		アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)						

令和6年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

③ 結果	事業名	ここにいてもいい リトウンアフターワーズ 山縣良和と綴るファッション表現のかすかな糸口				
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(準備期間が3か月弱と短かったので、急いだものの、全般的に少し遅れた) 開館後まで積み残しとなった事項(学校への通知、作品解説シートの作成)				
④ 成果	〔④成果〕 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	首都圏・隣接県、若年層、ファッションに興味ある人			
		成果	アンケート結果によると20代が25.1%、30代が20.6%と多く、県外からの来場者が59.2%、初めて来館した人が60.3%であった。			
		ねらい1 (転記)	ファッション表現の今を伝える			
		成果	デビューから一貫してファッションと社会の関係を問いつける山縣の活動を、初期の代表作や過去のコレクション発表作などに最新のフィールドワークを加えて再構成した、美術館全体がインスタレーションという展示になった。			
		ねらい2 (転記)	地域の文化や歴史、暮らしを見つめなおす			
		成果	短期間であったが、絹文化をめぐる群馬県内のフィールドワークを行い、その成果をインスタレーションとして発表した。県内から借用した資料や道具類なども合わせて展示し、地域の文化資源を見つめ直すきっかけを与えることができた。			
		ねらい3 (転記)	次世代を担うデザイナーの発表の場をつくる			
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1 参加作家のその後の活動を評価⇒後日、記入				
		2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日、記入				
		3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒近隣ギャラリーでリトウンアフターワーズの展示販売会が2回開催された。(R6.9.25)				
		4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒後日、記入				
		5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒絹文化のフィールドワークを行った。(R6.9.25)				
		6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒後日、記入				
		自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか		1.非常に良い	2.良い
合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか			1.非常に良い	2.良い	③.普通	4.劣る
事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか			1.非常に良い	②.良い	3.普通	4.劣る
社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか			1.非常に良い	②.良い	3.普通	4.劣る
課題・改善点			・諸事情により展覧会準備をはじめたのが開幕の半年前であったため進行を急ぐあまり、事務や担当学芸間で共有が不十分であった。勤務体制が異なるために出勤日が合わないことが多いが、メールやオンライン会議などを利用し、密に打合せをしていく必要がある。 ・インスタレーションに使用する家財道具の燻蒸や、軽トラックの洗浄、消毒、拭き上げ作業など予定していない作業が増えた。美術品に限らず展示物を持ち込む際、燻蒸の必要性を複数人で確認し、IPMを徹底する。 ・20代、30代の来館者は多かったが、大学生・高校生への働きかけが効果的に行えればよかった。			
引継ぎ事項 (特記事項)			・美術品に限らず展示物を持ち込む際、燻蒸の必要性を複数人で確認し、IPMを徹底する。			
コメント・意見	館長 副館長	アートとファッション表現領域の展覧会として、春展としての入場者数、関係者のみならず来場者からの一定の満足度・評価を得られる展覧会となった。年度またぎの展覧会における予算執行や準備作業の課題があったが、今後に向けて課題解決のきっかけとなる展覧会であった。企画内容に加え、SNS発信・SNS広告の活用やインフルエンサーの活用による広報周知活動により、過去のアーツ前橋の展覧会と比較し、来館者数・入館料収入を確保できた展覧会となった。				
	運営 評議会					